

教職大学院の理念、目的

教職実践専攻(教職大学院)は、学校教育に関する理論と実践を教授研究し、今後の学校教育に必要な知識・技術を身につけ、今日の教育課題や教育事象について、実践と理論との架橋・往還・融合を通して、高度にマネジメントし遂行できる高度教育実践力を育成し、専ら高度専門職業人である教員の養成と研修のための教育を行うことを目的とします。

- ## アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)
- 1) 学校教育にたずさわることへの使命感と熱意のある人。
 - 2) 学校教育の現状について幅広い関心を持ち、高度の教育実践力の獲得と向上を目指し、課題解決に意欲のある人。
 - 3) 学校づくりの有力な一員となり得る新入教員、または地域や学校における指導的役割を果たすことを目指す現職教員。

3. 課程修了要件とその内訳

共通科目	選択科目	学校における実習科目	単位総数
22 単位	18 単位	10 単位 (注)	50 単位

注) 現職教員選抜を受験し、「学校における実習科目」の免除を申請する場合は、入学時審査により免除されることがあります。

- ◎ 標準修業年数は2年とし、最長在学年限は4年とします。
- ◎ 開講形態は昼夜開講とし、履修の形態は入学者の勤務形態等に応じて14条適用、研修休業制度、長期履修制度等、柔軟な対応をとります。
- ◎ 教育指導は、教育研究教員(従来の大学教員)と実務家教員が行います。

教職大学院ならではの特徴

教職大学院の授業は「現場の思考」から出発します。

- ◎ 理論と実践の往還 → 自分の実践の理論的裏づけの獲得 → 自信と実践力向上。
- ◎ 国際的・全国的視野と問題解決的思考 → 未来志向(自分の中の前例主義の克服) → 学校教育や組織の刷新へ。
- ◎ 学校、教科、職種が異なる立場同士の話し合いと新たな気づき。
- ◎ 学校変革の強い意志を持った仲間づくり。院生相互の刺激・学び合い・連帯 → cohort 集団の形成。修了後も良き相談相手。

カリキュラムの特徴

- ◎ デマンドサイドのニーズに立脚したカリキュラム
現場の課題を授業科目に取り入れる。
- ◎ 理論と実践の融合を中核としたカリキュラム
課題発見・分析能力とチーム解決力・企画力を育成する。
- ◎ 大学院での研究成果を学校現場に直接還元できるカリキュラム
「教育実践研究」の成果を学校支援に活かす。
- ◎ 教育現場との協働によるカリキュラムの点検・評価と不断の改善
教育現場との意見交換を通じて絶えずカリキュラムの改善に努める。

● 院生:20名の内訳

〈現職教員院生:10名〉

- ・男性:6名、女性:4名
- ・小学校教員:4名、中学校教員:4名
- ・高等学校教員:1名、養護学校教員:1名

〈新卒院生:10名〉

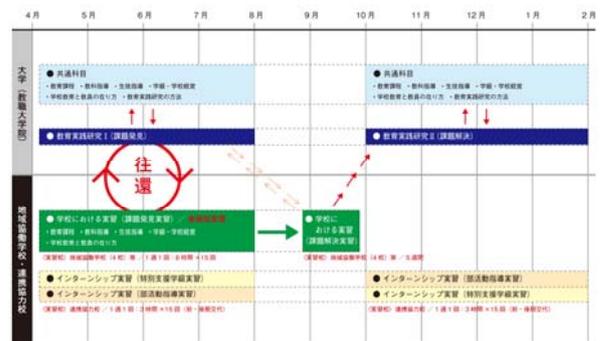
- ・男性:5名、女性:5名
- ・小学校教員志望:6名、中学校教員志望:4名
- ・教員採用試験合格者:2名
(小学校:1名、中学校:1名)

カリキュラムの主な特徴

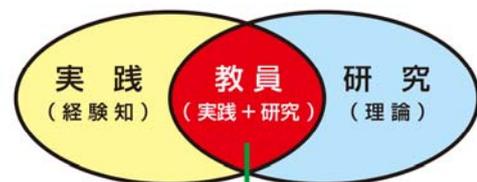
〈地域協働学校と連携したカリキュラム構造〉



● カリキュラムの関係、時間的流れと地域協働学校との関係



〈教員の職能発達に対応した履修モデル〉



教育実践力

アート・クラフト・サイエンスの一体化

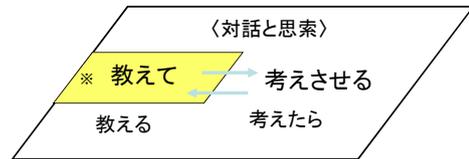
(岡山大学教職大学院における授業開発)

● 授業の理念(実践研究、実習も)

- 大学院生の主体的な学び
- 教えて考えさせる授業
- 思索、対話、時間的余裕
- ⊗ はいまわる経験主義
- ⊗ おしつけ作業主義
- ⊗ 過剰なグループワーク

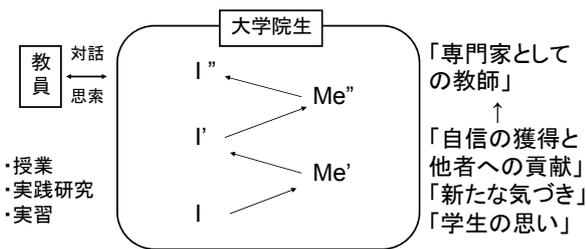
● 教育方法

※ 広がりのある「研究知 and / or 経験知」



(参考資料:市川伸一2005, 大村はま/苅谷剛彦・夏子2003)

● 対話と思索による自我の形成



(参考資料:ミード1973)

●教職大学院と、院生・学校現場をつなぎ、院生の学習・研究支援を行うとともに、連携協力校と日常的につながって、学校支援を行うために「コラボレーション・センター」を組織しています。



おわりに

- ・ 岡山大学教職大学院では、まず、子どもの教師の可能性、教育の共同性、学校の公共性という価値を共有する。
- ・ その上で、知識基盤社会のための学校を創造できる新人教員とスクールリーダーの輩出を目指したい。
- ・ そのために、アート、クラフト、サイエンスという観点から、教員養成とスクールリーダー教育における理論と実践の往還にアプローチする。